問 難病患者への経済的支援の充実を

答 対象者拡大を含め総合的に勘案する



光風会
村上（むらかみ） 志保（しほ） 議員

問 **東海村では指定難病患者および関節リウマチ患者に年1万5千円の見舞金を支給しているが、県内他市町村と比較すると必ずしも高いとは言えない。額の根拠は。**

答 主に臨床調査個人票の作成費用や医療費自己負担分等の一部に役立てていただくことを目的とし、近隣自治体の事例を参考に定めている。

問 **現在本村の見舞金は県内自治体の支給額の中央値である2万円を下回っている。この現状を踏まえても、村は1万5千円という支給額を妥当と考えるか。**

答 本村の受給者数は増加傾向にあり、近年の物価上昇等を考えると現行の1万5千円についての検証は必要と考えている。今後総合的に検証を進める。

問 **支給額の充実と対象者の拡大について、今後いかなる方向性を考えているのか。**

答 対象者の拡大を優先としつつ、他の助成金との比較、増額の理由・根拠の明確化、福祉施策全体の中でのバランス等を総合的に勘案する。



見舞金申請窓口の総合相談支援課

問 安定した医療を提供できるか

答 安定した医療環境を提供できる状況



新政とうかい
川崎（かわさき） 克彦（かつひこ） 議員

問 **村立東海病院の常勤医師が目標12名を下回っている。病院経営の安定性に係る評価は。**

答 非常勤医師の補充により、診療機能を滞りなく維持している。病院経営の安定性は常勤医師数のみをもって判断するものではなく、患者数や病床稼働率、医業収益、経常収支等、さまざまな経営指標を総合的に勘案しながら評価する必要がある。今後も村民の皆さまに安定した医療環境を提供できる状況にあると認識しているが、安定した経営を維持するため、引き続き常勤医師の確保をはじめとする経営基盤強化の取り組みを継続する。

問 **地域医療振興協会による同病院の医師確保の取り組みと成果は。**

答 全国展開する協会のスケールメリットやネットワークを生かした医師の派遣、配置調整、大学病院へのリクルートのほか、ホームページや人材派遣会社も活用した求人にも力を入れている。令和7年度は計5名の常勤医師が入職するなど、常勤医師の確保に成果を上げている。



地域医療の要である村立東海病院